CASE STUDY 株式会社 京都銀行

利用者保護と預金の安全確保の観点から、日立の非接触型指静脈認証ATMシステムを導入。より安全・安心なサービスを実現

「その人にしかない固有の特徴」を用い、成りすましや偽造が極めて困難な生体認証技術への期待が高まっている。株式会社 京都銀行（以下、京都銀行）は、日立が開発した非接触型指静脈認証によるICキャッシュカードのサービスを開始。2005年11月21日に本店営業部をはじめ3店舗に非接触型指静脈認証ATMを設置し、2006年3月までに全店導入を完了する。より安全・安心なサービスの実現を目指している。

最善の技術で最大の安全を提供

「『ながーい、おつきあい』と『飾らない銀行』が、京都銀行のコーポレートブランドです。短期の収益を目指すのではなく、地域と共に歩むリテール銀行の本道を表しています」と斎藤氏は説明する。

地銀有数の健全度を誇る京都銀行。2005年度には、柏原頭取が金融ジャーナル社の「ベストバンカー賞」に輝き、近畿2府3県に店舗展開する「広域型地方銀行戦略」にも注目が集まっている。これまでも利用者保護と預金の安全確保の観点から、ATMへの覗き見防止フィルムの装着やキャッシュカードによる支払い限度額の随時変更機能の追加など、金融犯罪による被害防止策に取り組んできた。そして今回、より安全・安心なサービス実現のため生体認証技術の導入に踏み切った。

「最先端技術の実用化であるだけに、セキュリティ対策とコストのバランスについては、銀行内でも議論がありました。しかしトップが、『銀行にとって信頼こそ最大の財産であり、お客さまの安全のための投資は惜しまない』という方針を強く打ち出しました。最善の技術を採用し、最大の安全を提供するのが、われわれのポリシーなのです」と北山氏は誇りを込めて語る。

株式会社 京都銀行
理事 事務部長
斎藤 一雄氏

利用者側の視点で選んだ非接触型指静脈認証

京都銀行が「最善の生体認証技術」として選んだのが、日立が開発した非接触型指静脈認証システムである。指静脈認証は、光を指に透過させて得られる静脈パターンの画像によって個人を識別する。

「お客さまが使いやすいことを最大の要件として、各種生体認証技術を比較検討しました」と斎藤氏は強調する。

認証精度が高くて速い、ATMにセットする機器がコンパクトであるなど、指静脈認証の技術的特長はすべて、利用者にとってもなじみやすい技術なのである。

「直接機械に触れる必要がなく、お客さまに清潔感を感じさせる『非接触』であることも大事なポイントです」と北山氏は付け加える。

ICキャッシュカード内認証で高度なセキュリティを実現

京都銀行の非接触型指静脈認証ATMシステムでは、各人の指静脈パターンをICキャッシュカードに登録。ATMで読み取った指静脈の情報とICカード内の情報を照合して認証を行う。静脈パターンの情報をICカードから外部へ読み出すことなく、ICカード内で認証処理を行うため、

お問い合わせ
株式会社 日立製作所 金融システム事業部 TEL.044-549-1254 www.hitachi.co.jp/fingervein
日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社 自動機事業部 TEL.03-5719-6014 www.hitachi-omron-ts.co.jp/security/sec-index.html

USER PROFILE
株式会社 京都銀行
www.kyotobank.co.jp/
本　　店 京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地
創　　立 1941年10月1日
資 本 金 280億円
従業員数 2,790名（2005年9月30日現在）
経営ビジョンとして「広域型地方銀行～利便性の高い銀行～」を掲げ、京都を中核として、それに隣接するエリアをも含む広域マーケットに営業展開。地銀有数の健全経営を誇る。2005年4月にスタートした新第2次中期経営計画では、成長への挑戦とリスク管理の向上という基本方針のもと、「地銀上位10行入り」を目指す

京都をイメージした図柄のICキャッシュカード。3種類の図柄から好きなものを選べる

本店に設置された非接触型指静脈認証ATM（写真左）と認証画面（写真上）

入退室管理では、ICカードは併用せず、サーバルームの入り口に設置した装置で読み取った静脈パターンを認証サーバ内の情報と照合する

静脈パターン情報が漏えいする心配がなく、個人情報保護の点でも優れている。

非接触型指静脈認証ATMシステムの構築には、ATMや窓口用の静脈パターン登録装置などのハードウェア、ATMや窓口端末を動かすソフトウェアに加えて、ICキャッシュカードを発行・運用するノウハウが必要である。日立と日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社（以下、日立オムロンターミナルソリューションズ）は、非接触型指静脈認証ATMシステムとICキャッシュカードの発行から運用までをトータルにサポート。プロジェクトを成功に導いた。

「2005年3月に指静脈認証の採用を決めてから、同年11月にはサービス開始という短期構築を実現できたのも、日立と日立オムロンターミナルソリューションズの全面的なサポートと迅速な対応のおかげです」と北山氏は評価する。

京都銀行では、2005年11月21日に本店営業部をはじめ3店舗に非接触型指静脈認証機能を搭載したATMの利用を開始。2006年3月までにネットダイレクト支店等を除く全128店舗への導入を完了する計画である。早くも「最寄りの店舗で指静脈認証を使えるようになるのはいつですか」といった問い合わせも多く、利用者からの関心はきわめて高い。また、「指認証はスマートですね」と若者からも好評を得ている。

株式会社 京都銀行
理事 システム部長
北山 裕治氏

さらに広がる指静脈認証技術の可能性

京都銀行はバックオフィスでもセキュリティ強化に取り組んでいる。そのひとつ、サーバを集中配置して個人情報を含む貴重な情報を一元管理する体制を整え、サーバルームへの入退室は、非接触型指静脈認証で管理するしくみを整えたのは2005年1月のことである。

非接触型指静脈認証は装置がコンパクトであるだけに、入退室管理のみならず、自動車のキーへの応用など、大きな可能性が広がっている。京都銀行でも、貸金庫への応用や高額支払い時の印鑑レスでの本人確認など、ATM以外でのサービスに活用していくことを検討中だ。

「京都銀行のセキュリティ対策はこれがゴールではありません。ファイルの暗号化にも日立製品を採用しており、日立は、セキュリティのトータルソリューションを提供してくれるパートナーであると捉えています。これからも幅広い側面から知恵を貸していただきたい」と斎藤氏。

今後も日立と日立オムロンターミナルソリューションズには、末永いパートナーシップと総合力の発揮が期待されているのである。

●記載されている会社名、製品名は、各社の商標もしくは登録商標です